秋田魁新報　2023年03月16日付　増Ｐ６

部活動紹介

仲間と楽しく日々成長

大曲農・野菜部

自分たちで育てているホウレンソウの前に並ぶ部員＝大仙市の大曲農業高校

栽培知識を学び深める

かの名前が示す通り野菜栽培が活動の中心だが、それだけにとどまらないのが部の魅力。住民らへの栽培指導や会社の販売などを通じ、地域との交流にまで取り組みを広げている。

大根にニンジン、枝豆、ナス、トウモロコシ。ある年にはショウガを育てたことも。校内にある約の畑では毎年、生徒が自分たちで食べたい作物を選び栽培が行われる。

佐々木幸生さん（１年）は専門的な知識はなかったが、野菜栽培をしてみたいと思い入部した。手をかけた作物の成長を実感するたび「将来、とうれしい気持ちになる」。活動は実践的な学びとともにある。この１年、顧問に教えてもらいながら種まきから実践し、栽培知識が一通り身に付いたという。

「観察について褒められる」と語るのは部長の大友凌賀さん（２年）。授業でも野菜栽培を学ぶが、もっと関わりたいと思い２年時から加わった。授業で習った知識を生かしつつ、学校祭で使う野菜を収穫時期から逆算して栽培するなど、より実践的に作物と向き合っている。

活動通じて地域と交流

地域との交流では、年に何度か「ニコニコ農業塾」と題して住民らに栽培方法を教えたり、育てた野菜を使ったメニューを提案したりといった活動を展開。参加者の楽しそうな様子やおいしいという言葉に、部員たちは「やりがいがある」「うれしい」と充実感を漂わせる。

大友さんは自身を「人見知り」と言うが、農業塾では積極的に参加者と接する。「初めは苦手だけど、ちょっとずつ慣れているのかな」と話すように、社会性を鍛える機会にもなっている。

地域と触れ合いながら、仲間でわいわい楽しく。そんなアットホームな雰囲気もまた部の魅力だ。

（石塚健悟）

男鹿海洋・マリンスポーツ部

ダイビングの技術磨く

水産教育校らしく、水中に潜るダイビング技術の習得に取り組むマリンスポーツ部がある。仲間と頼り合うということもあり、緊張感を持って水と向き合い、互いに声をかけ合いながら明るい雰囲気の中で技術を磨いている。

活動の舞台は、学校の敷地内にある屋内プールで水深は最大10メートル。４月から12月ごろまではプールを利用して学校を学び、水温が下がる冬期間は潜水士の国家資格を取得するための勉強に励む。

習得した技術を活用して実践的な潜水技術が身に付けられることに加え、将来の進路に生かせる資格の取得にも挑戦でき、部の魅力の一つとなっている。

金野竜也さん（１年）は「潜水の知識を学びながら技術を身に付けることができ、自分の可能性を広げられる部活」と話す。

資格取得にチャレンジ

プールを使用する時期で授業のある平日は、フィンや水中眼鏡、シュノーケルを着けて泳ぐ「フリッパー競技」の技術向上に力を入れる。基礎的な泳力や体力の向上は、安全にダイビングするためには欠かせないという。タンクや浮力を調整する専用ジャケットなど潜水道具の取り扱いは、週末や夏休みなどのまとまった時間を利用してしっかり学ぶ。

部ＯＢで顧問の鈴木政教諭（37）は「一番大事なのは、命の危険にさらされる可能性があることを忘れず、正しく水を恐れた上で、非日常を味わえるダイビングを楽しんでもらいたい」と話す。

吉田嶺哉さん（３年）は「プールでの練習は厳しいけれど、技術を身に付けて海に潜った時はとても楽しいし、達成感を味わえる」と笑顔を見せる。春から洋上風力関係の会社に就職する予定で、部での経験を生かせる日を楽しみにしている。

（田村翔子）

ダイビング技術の向上を目指し練習に取り組んできた生徒＝男鹿市の男鹿海洋高校

ⓒ秋田魁新報社